

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	21—文学—3
-----------------	---------

平成21年度配分 研究成果の概要

研究名	韓国漁村における土着文化の伝統と変容—内島の漁業と豊漁祭—				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長 特別研究費				800 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策学 部	国際文化学科	准教授	林在圭	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要 文化的行為としての食文化—食研究の視座—		号数	第 10 号 (2010年 3月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:学会等名:日本生活史学会報告「民俗服飾」近代化の過程—ローカルな視点からの比較研究—(共同)		発表日 (発表 予定日)	平成22年 9月 18日	
	3 その他 発表の方法: ①「韓国における韓服の伝統とその特徴」現代アジア・アジアセンター『アフラシア』no.7 (2010.3.1) ②「第2章食べる—食べ物考える」『人類学ワークブック』新線社(2010.7.1)		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

近年急速に変動しつつある韓国の地方地域社会(これまで開発が後発であった「忠清南道唐津郡」)を対象として、韓国社会の現代的変貌における土着文化と儒教文化とがいかに変容し、いかなる適応をとっているかについて明らかにする。そのために、忠清南道唐津郡の両班村落(農村)と非両班村落(沿岸漁村)とを対象村落として選定し、村落レベルにおける儒教的大伝統の受容の差異がいかなる異同を生じているかを実証的に検証する。

(研究の実施方法等)

両班村落(桃李里)の崇慕祭(儒教的な祖先祭祀の拡張化として)・機池市の大綱引き(伝統的な民俗芸能として)・非両班村落である内島の豊漁祭等の伝統的民俗祭礼を事例にして、巫俗的な土着文化と儒教文化の二重構造の様相および行政レベルの参与や国家の伝統文化復興政策の活性化のなかで当該地域社会の伝統的な民俗祭礼にみられる特徴と現代的な変化を検証する。

(得られた成果等)

西洋に片寄りがちである異文化認識に対してややもすれば距離的近接性の故に日本人の誤解を内包している韓国文化の理解の現状を鑑み、①韓国の基層文化の特徴と変容プロセスを継時的に把握する。②韓国における適応過程および変動要因を究明する。③急激な社会変化にもなって生じた諸問題(たとえば、地方地域社会の過疎・高齢化や開発・環境問題など)を析出し、これを東アジア諸国の場合と比較しつつ、その解決策についても検討する。④なによりも日本と韓国の地域社会の比較を通して日本と韓国文化の共通性と差異の明確な認識と、そのことを通じて国家レベルとしてよりも「民」のレベルにおける隣国韓国社会・文化の理解を深めている。そのために、毎年テーマに沿って調査研究を行い、中間的成果を諸雑誌等を通じて発表している。